

**Biz Box ルータ「RTX810」  
ファームウェアリリースノート  
Rev. 11.01.28**

**RTX810 Rev. 11.01.25 からの変更点**

以下のとおり機能追加・機能改善が行われました。

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.11.01/relnote\\_11\\_01\\_28.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.11.01/relnote_11_01_28.html)

Revision : 11.01.28

Release : Oct. 2016, ヤマハ株式会社

Rev. 11.01.28 リリースノート

---

RTX810 Rev. 11.01.25 からの変更点

---

■脆弱性対応

[1] OpenSSL の以下の脆弱性対応を行った。

- CVE-2015-1789 (JPCERT/CC JVN#91445763)
- CVE-2015-3195 (JPCERT/CC JVN#95113540)
- CVE-2016-0797
- CVE-2016-0799
- CVE-2016-2108

CVE-2015-1789 と CVE-2015-3195 は IKEv2 の PKI 証明書を利用した認証 (= 「デジタル署名方式」 および 「EAP-MD5 方式」 ) を行う場合に該当する。

この脆弱性の影響により、メモリーリークやリブート、ハングアップなどが発生する可能性がある。

■機能追加

[1] L2MS で、以下の機器に対応した。

- WLX202
- SWX2300-8G
- SWX2300-16G
- SWX2300-24G

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/swctl/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[2] YNO エージェント機能に対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/yno/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

- [3] FQDN Filter 機能に対応した。

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/fqdn\\_filter/index.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/fqdn_filter/index.html)

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

- [4] BGP の TCP MD5 認証機能に対応した。

○TCP MD5 認証の事前共有鍵の設定

[書式]

```
bgp neighbor pre-shared-key NEIGHBOR_ID text TEXT_KEY
no bgp neighbor pre-shared-key NEIGHBOR_ID [text TEXT_KEY]
```

[設定値及び初期値]

NEIGHBOR\_ID

[設定値] : 近隣ルーターの番号 (1... 2147483647)

[初期値] : -

TEXT\_KEY

[設定値] : ASCII 文字列で表した鍵 (80 文字以内)

[初期値] : -

[説明]

TCP MD5 認証で用いる事前共有鍵を設定する。設定した事前共有鍵が一致するピア間のみ、BGP のコネクションが成立する。

- [5] モバイルインターネット機能で、以下のデータ通信端末に対応した。

- docomo FOMA UM03-K0 専用アダプタセット
- NTT コム UX302NC Ver.1.0.7 以降
- IIJ mobile UX312NC v2.00 以降
- SoftBank 403ZT

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/mobile-internet/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

- [6] TCP ウィンドウ・スケール・オプションをコマンドで変更できるようにした。

○TCP ウィンドウ・スケール・オプション を変更する

[書式]

```
ip INTERFACE tcp window-scale SCALE
ip pp tcp window-scale SCALE
ip tunnel tcp window-scale SCALE
no ip INTERFACE tcp window-scale [...]
no ip pp tcp window-scale [...]
no ip tunnel tcp window-scale [...]
```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名、WAN インターフェース名

[初期値] : -

SW

[設定値]

設定値 説明

off 何もしない

remove TCP ウィンドウ・スケール・オプション を削除する  
[初期値] : off

[説明]

インターフェースを通過する TCP パケットのウィンドウ・スケール・オプションを強制的に変更する。

remove を指定すると、ウィンドウ・スケール・オプション が有効になっていた場合には、無効にして転送する。

○TCP ウィンドウ・スケール・オプション を変更する

[書式]

```
ipv6 INTERFACE tcp window-scale SCALE
ipv6 pp tcp window-scale SCALE
ipv6 tunnel tcp window-scale SCALE
no ipv6 INTERFACE tcp window-scale [...]
no ipv6 pp tcp window-scale [...]
no ipv6 tunnel tcp window-scale [...]
```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名、WAN インターフェース名

[初期値] : -

SW

[設定値]

設定値 説明

off 何もしない

remove TCP ウィンドウ・スケール・オプション を削除する

[初期値] : off

[説明]

インターフェースを通過する TCP パケットのウィンドウ・スケール・オプションを強制的に変更する。

remove を指定すると、ウィンドウ・スケール・オプション が有効になっていた場合には、無効にして転送する。

- [7] NGN 網を介したリナンバリング発生時に LAN インターフェースを一時的にリンクダウンするか否かを設定するコマンドを追加した。

○NGN 網を介したリナンバリング発生時に LAN インターフェースを一時的にリンクダウンするか否かの設定

[書式]

```
ngn renumbering link-refresh SWITCH
no ngn renumbering link-refresh [SWITCH]
```

[設定値及び初期値]

SWITCH

[設定値] :

設定値	説明
on	リナンバリング発生時、LAN インターフェースを一時的にリンクダウンする
off	リナンバリング発生時、取得したプレフィックスに変更がない場合は、LAN インターフェースをリンクダウンしない

[初期値] : on

[説明]

NGN 網を介したリナンバリングが発生した時、LAN インターフェースを一時的に

リンクダウンするか否かを設定する。

LAN インターフェースを一時的にリンクダウンさせることにより、DHCPv6-PD/RA プロキシの配下のより多くの端末に対して、IPv4/IPv6 アドレスの再取得を促し、リナンバリング後も通信を継続できるようにする。

このコマンドを on に設定した場合は、NGN 網を介したリナンバリングの発生時、取得したプレフィックスに変更がないときでも LAN インターフェースを一時的にリンクダウンする。off に設定した場合は、取得したプレフィックスに変更がないときはリンクダウンしない。

[8] IKEv2 で、CHILD SA の作成方法を変更できるようにした。

○CHILD SA 作成方法の設定

[書式]

```
ipsec ike child-exchange type GATEWAY_ID TYPE
no ipsec ike child-exchange type GATEWAY_ID [TYPE]
```

[設定値及び初期値]

GATEWAY\_ID

[設定値] : セキュリティ・ゲートウェイの識別子

[初期値] : -

TYPE : IKEv2 の CHILD SA 作成方法のタイプ

[設定値] :

設定値	説明
1	ヤマハルーターの IKEv2 の従来の動作との互換性を保持する
2	CREATE_CHILD_SA 交換を一部の実装にあわせる

[初期値] : 1

[説明]

IKEv2 の CHILD SA 作成方法を設定する。

このコマンドに対応する機種同士で接続する場合、タイプを同じ設定にして接続する必要がある。

[9] ソフトウェアの著作権情報を表示するコマンドを追加した。

また、起動時やログイン時に表示されていた著作権情報は表示されなくなった。

○ソフトウェアの著作権情報の表示

[書式]

```
show copyright [detail]
```

[設定値及び初期値]

detail

[設定値] : 条文を含めたソフトウェアの著作権情報を表示する

[初期値] : -

[説明]

ソフトウェアの著作権情報を表示する。

detail を指定することで、条文を含めたソフトウェアの著作権情報を表示することができる。

## ■仕様変更

[1] MLD 機能で、リンクローカルスコープのグループが格納されたレポートの送受信を

有効にするか否かを設定で切り替えることができるようにした。

[書式]

```
ipv6 INTERFACE mld TYPE [OPTION ...]
ipv6 pp mld TYPE [OPTION ...]
ipv6 tunnel mld TYPE [OPTION ...]
no ipv6 INTERFACE mld [TYPE [OPTION ...]]
no ipv6 pp mld [TYPE [OPTION ...]]
no ipv6 tunnel mld [TYPE [OPTION ...]]
```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名

[初期値] : -

TYPE : MLD の動作方式

[設定値] :

設定値	説明
off	MLD は動作しない
router	MLD ルーターとして動作する
host	MLD ホストとして動作する

[初期値] : off

OPTION : オプション

[設定値] :

version=VERSION

MLD のバージョン

設定値	説明
1	MLDv1
2	MLDv2
1,2	MLDv1 と MLDv2 の両方に対応する。(MLDv1 互換モード)

syslog=SWITCH

詳細な情報を syslog に出力するか否か

設定値	説明
on	表示する
off	表示しない

robust-variable=VALUE(1..10)

MLD で規定される Robust Variable の値を設定する。

report-link-local-group=SWITCH★

リンクローカルスコープのグループを処理するか否か

設定値	説明
on	MLD ルーターとして動作しているとき、リンクローカルスコープのグループのレポート受信を有効にする
off	MLD ホストとして動作しているとき、リンクローカルスコープのグループのレポート送信を有効にする

[初期値] :

```
version=1,2
syslog=off
robust-variable=2
report-link-local-group=off★
```

[説明]

インターフェースにおける MLD の動作を設定します。

- [2] OSPF および BGP で、インターフェースの状態変化を検知したとき、複数の外部経路の反映処理をまとめて行うようにした。

○インターフェースの状態変化時、OSPF に外部経路を反映させる時間間隔の設定

[書式]

```
ospf reric interval TIME  
no ospf reric interval [TIME]
```

[設定値及び初期値]

```
TIME  
  [設定値] : 秒数 (1 以上の数値)  
  [初期値] : 1
```

[説明]

ルーターのインターフェースの状態が変化するとき、OSPF に外部経路を反映させる時間の間隔を設定する。

OSPF ではインターフェースの状態変化を 1 秒間隔で監視し、変化があれば最新の外部経路を自身に反映させるが、インターフェースの状態変化が連続して発生するときは、複数の外部経路の反映処理が TIME で指定した秒数の間隔でまとめて行われるようになる。

[ノート]

複数のトンネルが一斉にアップすることがあるような環境では、本コマンドの値を適切に設定することで、OSPF や BGP の外部経路の導入によるシステムへの負荷を軽減することができる。

本コマンドの設定値は、BGP への外部経路の反映にも影響する。本コマンドと bgp reric interval コマンドの設定値が食い違う場合には、本コマンドが優先して適用される。

本コマンドの設定は、経路の変化や IP アドレスの変化に対する OSPF や BGP の動作には関係しない。

○インターフェースの状態変化時、BGP に外部経路を反映させる時間間隔の設定

[書式]

```
bgp reric interval TIME  
no bgp reric interval [TIME]
```

[設定値及び初期値]

```
TIME  
  [設定値] : 秒数 (1 以上の数値)  
  [初期値] : 1
```

[説明]

ルーターのインターフェースの状態が変化するとき、BGP に外部経路を反映させる時間の間隔を設定する。

BGP ではインターフェースの状態変化を 1 秒間隔で監視し、変化があれば最新の外部経路を自身に反映させるが、インターフェースの状態変化が連続して発生するときは、複数の外部経路の反映処理が TIME で指定した秒数の間隔でまとめて行われるようになる。

[ノート]

複数のトンネルが一斉にアップすることがあるような環境では、本コマンドの値を適切に設定することで、OSPF や BGP の外部経路の導入によるシステムへの負荷を軽減することができる。

本コマンドの設定値は、OSPF への外部経路の反映にも影響する。本コマンドの設定値と ospf reric interval コマンドの設定値が食い違う場合には、ospf reric interval コマンドの設定値が優先して適用される。

- [3] SSH サーバー公開鍵を生成するときに、2048 ビットの鍵長を選択できるようにした。  
また、セキュリティの観点から SEED パラメーターの入力を無視するようにした。

○SSH サーバーホスト鍵の設定

[書式]

```
sshd host key generate [bit=BIT] ★  
no sshd host key generate [...]
```

[設定値及び初期値]

```
BIT
```

[設定値] : 鍵のビット長 (1024, 2048)

[初期値] : 1024

[説明]

SSH サーバーのホスト鍵を設定する。

BIT パラメーターによって、生成する鍵のビット数を指定できる。★

[ノート]

SSH サーバー機能および SFTP サーバー機能を利用する場合は、事前に本コマンドを実行してホスト鍵を生成する必要がある。

既にホスト鍵が設定されている状態で本コマンドを実行した場合、ユーザーに対してホスト鍵を更新するか否かを確認する。

ホスト鍵の生成には、機種によって異なるが、1024 ビット鍵では数秒から数分程度、2048 ビットの鍵では数分から十数分程度の時間がかかる。★

TFTP で設定を取得した場合は、ssh host key generate [bit=BIT] KEY1 KEY2 KEY3 という形式で保存される。★

KEY1~KEY3 は、秘密鍵を機器固有の方式で暗号化した文字列である。

- [4] SSH サーバー公開鍵の鍵指紋を表示するパラメーターを追加した。

○SSH サーバー公開鍵の表示

[書式]

show sshd public key [fingerprint] ★

[設定値及び初期値]

fingerprint ★

[設定値] : 鍵指紋を表示する

[初期値] : -

[説明]

SSH サーバーの公開鍵を表示する。

fingerprint キーワードを指定した場合は、公開鍵の鍵長と鍵指紋を表示する。★

- [5] clear log コマンドに saved オプションを追加した。

このオプションを指定することで、show log saved コマンドを実行したときに表示されるログをクリアすることができる。

○ログのクリア

[書式]

clear log [saved]

[設定値及び初期値]

saved ★

[設定値] : リポート直前のログをクリアする

[初期値] : -

[説明]

ログをクリアする。

saved を指定することで、show log saved コマンドを実行したときに表示されるログをクリアすることができる。★

- [6] データコネク ト拠点間接続で設定するトンネルインターフェースの帯域幅の設定を細かく設定できるように変更した。

○NGN 網を介したトンネルインターフェースの帯域幅の設定

[書式]

tunnel ngn bandwidth BANDWIDTH [arrivepermit=SWITCH]

no tunnel ngn bandwidth [BANDWIDTH arrivepermit=SWITCH]

[設定値及び初期値]

BANDWIDTH

[設定値] : 帯域幅 (1k - 1000M)

[初期値] : 1m

#### SWITCH

[設定値] :

on ... 帯域の設定と一致しない着信も許可する

off .. 帯域の設定と一致した着信のみ許可する

[初期値] : on

#### [説明]

NGN 網を介したトンネルインターフェースの帯域幅を設定した値にする。

帯域の設定が一致しない着信について、arrivepermit オプションが off の場合は着信せず、on の場合は着信する。

#### [ノート]

通信中の変更は無効。

- [7] TFTP で設定ファイルを書き込むとき、設定ファイルの最終行で末尾に改行コード (LF) が付加されていないコマンドも認識できるようにした。
- [8] NGN のリナンバリングで、DEBUG レベルの SYSLOG に出力されていた以下のログを、INFO レベルの SYSLOG に出力するようにした。
  - [DHCPv6] Renumbering start インターフェース名
  - [DHCPv6] Renumbering success インターフェース名
  - [IPv6] Received renumbering signal インターフェース名
  - [IPv6] Renumbering start インターフェース名
  - [IPv6] Renumbering success インターフェース名
- [9] DHCPv6 クライアント機能で、サーバーから RECONFIGURE メッセージを受信したときに、INFO レベルの SYSLOG に以下のログを出力するようにした。
  - [DHCPv6] receive RECONFIGURE
- [10] モバイルインターネット機能で、DEBUG レベルの SYSLOG に表示される以下のログにおいて、プレフィックスの後に "MOBILE :" が表示されるようにした。

プレフィックスの後に "MOBILE :" が表示されるようにしたログ :

  - [USB\_HOST] MOBILE : ERROR : The number of the received datagram was not found.
  - [USB\_HOST] MOBILE : ERROR : Acquisition of the received NDP entry went wrong.
- [11] 電源スイッチにより電源を落としたとき、シリアルコンソール上に以下のメッセージを出力するようにした。

"Power switch was turned off."

ただし、ルーターの起動が完了していないときは出力されない。
- [12] ブリッジインターフェースに收容された LAN インターフェースでは QoS 機能は使用できない仕様であるため、bridge member コマンドによってブリッジに收容された LAN インターフェースに対して、queue type コマンドで fifo 以外を指定した場合、入力エラーとなるようにした。

また、queue type コマンドで fifo 以外が指定された LAN インターフェースを bridge member コマンドで指定した場合も同様に入力エラーとなる。
- [13] かんたん設定ページのヘルプの [全般]-[その他]-[切断コード表] で、以下の切断コードの説明を追記した。
  - 3000 認証失敗

- 3004 SIP サーバーの名前解決失敗
- 3020 リクエストタイムアウト
- 3503 SIP サーバー輻輳

#### ■バグ修正

[1] 不正なフォーマットの PPPoE パケットを受信したとき、リポートする可能性を排除した。

[2] L2TPv3 を用いた L2VPN で、IEEE802.1Q タグが複数付加された L2 フレームを転送すると CPU 使用率が 100% になり、その後リポートするバグを修正した。

[3] L2TP/IPsec で、トンネルから受信したパケットを IPv6 ネットワーク上で確立した別のトンネルから送信するときにリポートすることがあるバグを修正した。

[4] ipsec transport コマンドで、プロトコルまたは始点ポートリストのパラメーターを省略して実行したときにリポートするバグを修正した。

Rev. 11.01.25 で発生する。

[5] 以下のコマンドを追加または削除したとき、リポートすることがあるバグを修正した。

- ipsec transport
- ipsec transport template

Rev. 11.01.25 で発生する。

[6] BGP の経路強制広告機能で、ピアから受信した経路と強制配信対象の経路が同一であったときに、動作が不安定になったりリポートしたりする可能性を排除した。

Rev. 11.01.25 で発生する。

[7] BGP で、ピアとの接続が確立できない状態で経路強制広告機能を有効にしたときに、動作が不安定になったりリポートしたりする可能性を排除した。

Rev. 11.01.25 で発生する。

[8] URL フィルター機能で、以下の条件をすべて満たしたときに、リポートしたりブロック画面で表示される「キーワード」の一部が欠けたりすることがあるバグを修正した。

- url filter reject コマンドで reject (デフォルト値) が設定されている
- リダイレクト先のブロック画面の URL が 2048Byte を超えている

[9] ひかり電話契約ありの NGN 回線で、NGN のリナンバリング処理が完了したときにリポートやハングアップする可能性を排除した。

[10] dhcp scope bind コマンドが設定されているときに dhcp server rfc2131 compliant コマンドを off あるいは use-clientid 機能を使用しない設定にするとリポートする可能性を排除した。

[11] no nat descriptor masquerade session limit コマンドを実行すると、リポートする可能性を排除した。

[12] かんたん設定ページから IPv6 IPoE の設定をし、コンソールから provider lan2 name コマンドの設定を追加した後、かんたん設定ページの [詳細設定と情報]-[ファイアウォールの設定] を開くとリポートすることがあるバグを修正した。

- [13] かんたん設定ページの[詳細設定と情報]-[リビジョンアップの実行]で、ダウンロードする URL の入力欄に 205 文字以上の URL を入力して設定の確定を行なうと、リポートすることがあるバグを修正した。
- [14] かんたん設定ページ閲覧時にブラウザの更新を連続して行くと、リポートやハングアップすることがあるバグを修正した。
- [15] PPTP で、接続処理が始動するときメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [16] PPTP で、接続の確立に失敗したときにメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。
- [17] 設定の保存に失敗したときメモリーリークすることがあるバグを修正した。
- [18] モバイルインターネット機能で、モバイル端末のアタッチ処理中に端末をデタッチさせると、以後の端末のアタッチが正しくできなくなることがあるバグを修正した。
- [19] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、リモートアクセスの相手にルーター自ら DHCP サーバーとして IP アドレスを割り当てる設定のとき、LAN インターフェースがリンクアップしていない状態で PPTP および L2TP/IPsec を使用したリモートアクセス VPN 接続を受けると、DHCP サーバーの DHCP スコープ内のアドレスがすべて使用中の状態になってしまい、IP アドレスを割り当てることができなくなるバグを修正した。
- Rev. 11. 01. 25 で発生する。
- [20] モバイルインターネット機能で、通信制限の累積期間が経過しても制限が解除されないことがあるバグを修正した。
- [21] モバイルインターネット機能で、disconnect コマンドを連続して実行すると、ブザーが複数回鳴動することがあるバグを修正した。
- [22] モバイルインターネット機能で、PP インターフェース接続にて docomo L-03F を利用したときに、切断時の切断理由が正しくないことがあるバグを修正した。
- [23] モバイルインターネット機能で、show status wan1 コマンドで表示される送信パケット数、累積送信パケット数および送信廃棄パケット数が正しくないことがあるバグを修正した。
- [24] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、wan1 always-on on コマンドを設定しているとき、回線の切断状態を検出しても STATUS LED が点灯しないバグを修正した。
- [25] モバイルインターネット機能で、show status usbhost コマンドで表示される自局番号や IMEI が不正な値になる可能性を排除した。
- [26] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、発呼のときに "IP Commencing~" のログが出力されないことがあるバグを修正した。
- [27] IPsec で、以下の条件をすべて満たす場合に IPsec トンネルを経由する通信が行えないバグを修正した。
- ipsec ike esp-encapsulation コマンドによって ESP パケットが UDP でカプセル化される設定が有効になっている
  - UDP でカプセル化されたパケットの送信先となるゲートウェイと、ESP パケットの送信先となるゲートウェイが異なる
  - UDP でカプセル化されたパケットがファストパスで送信される
- [28] IPsec で、以下のすべての条件を満たす場合に、正しい設定であっても接続が確立しないバグを

修正した。

- ipsec ike negotiate-strictly コマンドが on に設定されている
- ipsec ike encryption コマンドで aes256-cbc が設定されている

[29] データコネクト拠点間接続の IPsec トンネルで、着信後にデータ送受信が全くない場合、tunnel ngn disconnect time コマンドの設定に関わらず、60 秒で切断してしまうことがあるバグを修正した。

[30] IKEv2 で、IKE SA のリキー後に ipsec sa delete コマンドで CHILD SA を削除すると、トンネルアップできなくなることがあるバグを修正した。

[31] IKEv2 で、ipsec sa delete コマンドで IKE SA を削除するとき、ipsec ike message-id-control コマンドが on に設定されていると対向に Delete 要求を送信しないことがあるバグを修正した。

Rev. 11. 01. 21 以降で発生する。

[32] L2TP/IPsec で不正な L2TP 制御パケットを受信すると、ANONYMOUS インターフェースが占有されてしまい、それ以降 ANONYMOUS インターフェースが使用できなくなるバグを修正した。

[33] L2TP/IPsec で、クライアントに対して DNS サーバー情報が通知されず、名前解決を伴う通信ができないことがあるバグを修正した。

[34] L2TP/IPsec で、L2TP トンネル認証を用いた接続を行えないことがあるバグを修正した。

[35] L2TPv3 で、トンネルの接続中に以下のコマンドによって接続先が変更された場合に、再接続に失敗することがあるバグを修正した。

- tunnel endpoint address
- tunnel endpoint name

[36] L2TPv3 で、tunnel endpoint name コマンドによって接続先のドメイン名 (FQDN) が指定されている場合、接続処理が始動しないことがあるバグを修正した。

[37] PPTP でトンネルの端点をドメイン名 (FQDN) で指定しているとき、自機からの接続要求と相手側からの接続要求、および対応するドメイン名の IP アドレスの更新のタイミングが重なると、当該 PPTP 上の通信が行えなくなることがあるバグを修正した。

[38] OSPFv2 でエリア境界ルーター (ABR) として動作しているとき、バックボーンエリアに存在する AS 境界ルーター (ASBR) への経路が不正になったり、誤ったメトリック値を含むタイプ 4 の LSA (ASBR-summary-LSA) をバックボーンエリアに隣接するエリアに広告したりすることがあるバグを修正した。以下の条件に当てはまる場合に発生する。

- バックボーンエリア側のインターフェースは DROther、隣接する他のエリア側のインターフェースは DR として動作している
- 両エリアに隣接する ABR が当該ルーター以外にも存在する
- 当該ルーターのバックボーンエリア側のインターフェースがダウンして、当該ルーターを経由していた ASBR への経路が別の ABR 経由に切り替わり、その後ダウンしていたインターフェースが再度アップした

[39] OSPFv2 で、他の OSPF ルーターから受信したタイプ 5 の LSA (AS-external-LSA) の寿命が尽きたとき、当該 LSA に含まれる外部経路は無効な経路であるにもかかわらず、有効な経路として扱われることがあるバグを修正した。

[40] OSPFv3 で、ネイバーのリンクローカルアドレスの取得に失敗することがあるバグを修正した。本バグが発現すると、該当するネイバーが広告する経路を経由した通信ができなくなり、

また、show ipv6 route コマンドでその経路のゲートウェイが “-” と表示される。

- [41] PP/LAN バックアップ機能で、バックアップ切り替え時にバックアップ側への ping が通らないことがあるバグを修正した。
- [42] パケット転送フィルターを使って wan1 インターフェース宛にパケットを転送したときに、パケットを送信できないバグを修正した。
- [43] ethernet filter コマンドで pass-log もしくは reject-log の設定がされているとき syslog notice off の状態であってもスループットが著しく低下するバグを修正した。
- [44] インターフェースの IP アドレスが設定されたときに、優先度が低い経路については経路の再検索が行われず、経路情報が不正になるバグを修正した。
- [45] ファストパスで、PPTP のトンネルまたはモバイルインターネットを介したデータパケットを受信したときに、ファストパスの処理対象ではないにも関わらずフローが生成されるバグを修正した。
- [46] データコネクト拠点間接続において、ファストパスで送信するパケットの UDP ヘッダのチェックサムを計算していなかったバグを修正した。
- [47] データコネクト拠点間接続機能で、送信するパケットがファストパスで処理されるときに、パケットの優先度を示す IPv6 ヘッダのトラフィッククラスの値が低くなるバグを修正した。
- [48] anonymous インターフェースにおいて、myname オプションを付けて pp auth username コマンドが設定されている場合と同じユーザー名とパスワードを使った複数の接続を同時に受けることができないバグを修正した。
- [49] 以下のコマンドで PP ANONYMOUS01 の情報しか処理されていないバグを修正した。
  - show url filter
  - show url filter external-database
  - show url filter pp anonymous
  - show url filter external-database pp anonymous
  - clear url filter pp anonymous
  - clear url filter external-database pp anonymous
- [50] MLD 機能で、MLDv2 の MLD ルーターとして動作しているインターフェースが、ソースリストが空のレポートを新規に受信したとき、プロキシ情報とルーティング情報にマルチキャストグループが追加されないバグを修正した。
- [51] MLD 機能で、MLD ルーターの MLDv1, v2 の互換モードとして動作しているとき、MLDv1 レポートを受信してグループ情報を登録し、一定時間そのグループ情報を含む MLDv1 レポート受信しなかった場合に、そのグループのエントリがタイムアウトしなくなるバグを修正した。
- [52] DHCP サーバー機能で、一部の DHCP リレーサーバーから受信した DHCP パケットを処理できないバグを修正した。

Rev. 11. 01. 25 で発生する。
- [53] RTFS 領域にファイルアクセスしているときに設定を保存しようとする、設定の保存に失敗し、それ以降設定を保存できなくなる可能性があるバグを修正した。

- [54] SFTP 接続で、ファイルやディレクトリの情報を表示したときに不正な更新日時が表示されるバグを修正した。
- [55] INTEGER 型の MIB 変数で負数を取得できないバグを修正した。
- [56] L2MS で、機器名の長さが 64byte を超えるスレーブがスレーブとして認識されないバグを修正した。
- [57] L2MS の無線 AP に対するゼロコンフィグ機能で、以下の条件をすべて満たす場合に、工場出荷状態で起動せずファイル名が「経路.conf」のコンフィグファイルを読み込むバグを修正した。
  - ap config filename コマンドが設定されていない
  - ファイル名が「MAC アドレス.conf」のコンフィグファイルが存在しない
  - ファイル名が「経路.conf」のコンフィグファイルが存在する
- [58] IPv6 で PPPoE 接続をしているとき、clear status lan コマンドを実行しても show status lan コマンドで表示される IPv6 の送受信パケット数がクリアされないバグを修正した。
- [59] clear mobile access limitation コマンドで、USB インターフェースを指定して実行しても、指定した USB ポートをバインドしている WAN インターフェースの累積のカウンター情報がクリアされず、発信制限が解除されないバグを修正した。
- [60] NGN のリナンバリングに関するログの誤記を修正した。
- [61] 不正な NTP パケットを受信したとき、SYSLOG に表示されるポート番号が正しくないバグを修正した。
- [62] LAN1 インターフェース経由で PPPoE 接続をしたとき、切断後も show history コマンドの通信履歴が「通信中」と表示されたり、履歴自体が表示されないことがあるバグを修正した。
- [63] dhcp duplicate check コマンドで 2 つめのパラメーターを入力せずに設定しようとしたときに、エラーメッセージが正しくないバグを修正した。
- [64] ipv6 INTERFACE mld コマンドで、オプションパラメーターを重複して指定したときにエラーにならず、またオプションパラメーターを設定可能最大数以上に入力できてしまうバグを修正した。
- [65] tunnel ngn interface コマンドで不正なパラメーターが入力できるバグを修正した。
- [66] less config switch コマンドによる表示が正しくできないバグを修正した。
- [67] show status bgp neighbor advertised-routes コマンドの実行結果で、各パラメーターの値として不正な値が出力されるバグを修正した。
- [68] show command コマンドで no bgp force-to-advertise の説明が表示されるバグを修正した。

Rev. 11. 01. 25 で発生する。

- [69] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。
  - show url filter
  - dhcp scope
  - show status pp

- show status qos
- mobile arrive use
- clear url filter

[70] かんたん設定ページのヘルプの切断コード表に、以下の切断コードが表示されないバグを修正した。

- 781 累積接続時間の発信制限により発信できません。
- 1553 携帯端末からの応答がないためタイムアウトした。
- 1554 データ送信に失敗した。
- 1555 サポートしていない接続タイプが設定されている。

[71] スイッチ制御 GUI から WLX202 の IP アドレスの設定をする時、サブネットマスクが空欄の状態の設定できてしまうバグを修正した。

---

#### ■更新履歴

Oct. 2016, Rev. 11.01.28 リリース

以上